

## 平成29年 北海道森づくり研究成果発表会について

平成29年4月19日（水）、平成29年北海道森づくり研究成果発表会を北海道立道民活動センター かでる2・7において開催しました。

今年の発表会も昨年に引き続き、森林研究本部の林業試験場（森林整備部門）と林産試験場（木材利用部門）が一体となった合同開催とし、一般発表、森林整備部門及び木材利用部門について、口頭発表はかでるホールで、ポスター発表は展示ホールで、それぞれ同一会場で実施しました。

口頭発表は、北海道の森林室、北海道森林管理局及び企業など一般発表が4件、林業試験場が4件、林産試験場が6件、林業試験場と林産試験場の共同研究が1件、計15課題について発表を行いました。

ポスター発表は、一般発表が6件、森林整備部門が11件、木材利用部門が16件、計33件の展示のほか、製品などの展示を行いました。

発表者が個別に説明するコアタイムは、ポスター発表会場で昼休みと口頭発表終了後の2回設定し、参加者との意見交換が活発に行われ、研究成果に対する関心の高さがうかがえました。

さらに、道水産林務部森林環境局森林活用課による写真展として「活躍する森林所有者」の紹介や林業普及指導員の日頃の普及指導活動を紹介する「第32回林業普及写真展」などを同時に開催しました。

参加人数は455名で、そのうちCPD団体会員（技術者教育支援制度）の受付は100名と年々増加しており、この発表会が、国・道等の行政機関のみならず、企業や林業関係団体から研究成果の実用化に向けた期待が高いものと感じているところです。

参加者から寄せられたアンケート結果によると、口頭発表の同一会場での開催について「よい」との回答が85.7%、「別々の方がよい」が4.1%あり、よいの理由としては「一度に両方聞ける」「両部門の関連が分かる」が多く、別々の方がよいの理由としては「一般と森林を聞きたい」など様々な意見をいただきました。

次の開催に向けては、アンケート結果の内容や両試験場の意向を考慮し、さらに充実した発表会につながるよう検討したいと考えています。

今回の光珠内季報No. 183では、当日の林業試験場関係分11件について、要旨を掲載します。それぞれの研究成果についてご一読いただき、参考にしていただければ幸いです。



口頭発表会場



ポスター発表



写真展